

第54期 中間報告書

平成26年1月1日から平成26年6月30日まで



大和冷機工業株式会社

<http://www.drk.co.jp>

証券コード 6459

株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、平成26年6月30日をもちまして、第54期事業年度の中間期（平成26年1月1日から平成26年6月30日まで）を終了いたしましたので、この期間の事業の概況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年9月



代表取締役社長
尾崎 敦史

事業の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、設備投資の増加、雇用情勢の着実な改善など、政府の各種政策により景気は緩やかな回復基調が続いているものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動やアメリカの金融緩和縮小による影響、中国や新興国経済の先行きに対する懸念などわが国の景気を下押しするリスクにより、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社を取り巻く環境につきましては、主要取引業種の外食産業にあっては、持ち直しがみられるものの消費者の節約志向・低価格志向はいまだ根強く、また、食品業界や一般小売業にあっては原材料の価格高騰など、引き続き厳しい経営環境にありました。

このような状況の中、当社においては、業界初のスライド扉冷蔵庫によるスペース有効活用での効率化提案、および、コスト削減に繋がる省エネ提案など、顧客の立場から付加価値を高める提案を推進し、新たな需要を生み出す営業活動に取り組んでまいりました。また、当社初となるブラストチラーの拡販を行い、新規市場への積極的な営業展開で、業績の維持向上に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高15,405百万円、営業利益2,828百万円、経常利益2,872百万円、四半期純利益1,721百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、わが国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により一部に弱さが残るものの次第に和らぎつつあり、景気回復基調の継続が期待されながらも、紛争による地政学的リスクなど海外情勢の懸念材料があり、景気の先行きは依然として予断を許さない厳しい経営環境が続くと思われまます。

このような環境の下、当社は、社業の安定成長を図るため、顧客のニーズを的確かつ迅速に捉えて新製品の開発に繋げ、新市場の創造・新規顧客の開拓に取り組むとともに、常に安全・安心を提供できるサービス技術の一層の強化等、顧客の信頼に応えうる諸施策を積極的に推し進め、かつ、製造コストと経費の削減を図り、収益基盤の改善に努めてまいり所存であります。

なお、中間配当金につきましては、前期同様1株につき5円とさせていただきますので、ご報告申し上げます。

四半期貸借対照表

(単位：百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
期 別	当第2四半期会計期間	前 期	期 別	当第2四半期会計期間	前 期
科 目	平成26年6月30日現在	平成25年12月31日現在	科 目	平成26年6月30日現在	平成25年12月31日現在
流 動 資 産	45,447	42,619	流 動 負 債	9,124	6,117
現金及び預金	38,250	36,098	支払手形及び買掛金	3,538	2,848
受取手形及び売掛金	3,680	3,692	未払法人税等	1,305	458
商品及び製品	1,754	1,363	引 当 金	404	354
仕 掛 品	339	264	そ の 他	3,875	2,455
原材料及び貯蔵品	393	346	固 定 負 債	2,053	2,166
点検修理用部品	214	221	退職給付引当金	938	1,068
そ の 他	817	635	役員退職慰労引当金	1,108	1,090
貸倒引当金	△ 3	△ 3	そ の 他	6	6
固 定 資 産	14,792	13,256	負 債 合 計	11,178	8,283
有形固定資産	9,397	7,903	純資産の部		
無形固定資産	114	65	株 主 資 本	49,060	47,601
投資その他の資産	5,281	5,287	資 本 金	9,907	9,907
投資有価証券	656	641	資 本 剰 余 金	9,867	9,867
そ の 他	4,657	4,686	利 益 剰 余 金	29,484	28,019
貸倒引当金	△ 32	△ 39	自 己 株 式	△ 198	△ 192
資 産 合 計	60,239	55,875	評 価 ・ 換 算 差 額 等	0	△ 8
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	0	△ 8
			純 資 産 合 計	49,061	47,592
			負 債 ・ 純 資 産 合 計	60,239	55,875

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
 (当第2四半期会計期間)
 2. 有形固定資産の減価償却累計額 12,246百万円

四半期損益計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間	前 期
	平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで	平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで
売 上 高	15,405	13,467	29,540
売 上 原 価	5,934	5,104	11,744
売上総利益	9,471	8,363	17,796
販売費及び一般管理費	6,642	6,016	12,619
営業利益	2,828	2,347	5,177
営業外収益	94	102	197
受取利息	7	6	15
受取配当金	8	7	12
スクラップ売却益	35	32	71
その他	42	54	98
営業外費用	50	71	128
スクラップ処分費	32	29	64
その他	17	41	63
経常利益	2,872	2,377	5,246
特別利益	7	139	139
固定資産売却益	7	3	3
投資有価証券売却益	—	2	2
抱合せ株式消滅差益	—	133	133
特別損失	3	3	5
固定資産除却損	3	1	3
投資有価証券売却損	—	1	1
税引前四半期 (当期)純利益	2,876	2,513	5,379
法人税、住民税及び事業税	1,259	471	1,348
法人税等調整額	△ 105	△ 126	142
法人税等合計	1,154	345	1,490
四半期(当期)純利益	1,721	2,168	3,888

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで	平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,779	2,362
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 862	△ 1,840
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 265	△ 259
現金及び現金同等物 の増減額	2,651	262
現金及び現金同等物 の期首残高	33,498	31,666
連結子会社の合併による現金 及び現金同等物の増減額	—	394
現金及び現金同等物 の四半期末残高	36,150	32,323

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)残高は前事業年度末と比べて2,651百万円増加の36,150百万円となりました。これは、営業活動で得た資金を投資活動や財務活動に充てた結果、資金が増加したためであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は、3,779百万円(前年同期に増加した資金は2,362百万円)となりました。これは主に、税引前四半期純利益2,876百万円、未払費用の増加997百万円、仕入債務の増加690百万円等が、法人税等の支払額412百万円、たな卸資産の増加額505百万円を上回ったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は、862百万円(前年同期に減少した資金は1,840百万円)となりました。これは主に、固定資産の取得による支出1,358百万円、定期預金の預入による支出500百万円が、定期預金の払戻による収入1,000百万円を上回ったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の減少は、265百万円(前年同期に減少した資金は259百万円)となりました。これは主に、配当金の支払額259百万円であります。

ノンフロン^{※1}のシクロペンタンと インバータ制御を採用した 環境にやさしい冷蔵庫

省エネと
静音性を
実現!!

業界初^{※1}となる真空断熱材の採用!!

業界初となる真空断熱材の採用^{※2}、ドアバック・
ガスケットの改良^{※3}により省エネ性がさらに向上。

※1: 2014年2月現在、業務用冷凍・冷蔵庫において(当社調べ) ※2: 代表機種に採用 ※3: 順次切替



ノンフロン断熱

当社では業界に先駆け、本体・扉の断熱材は発泡剤にシクロペンタンを採用しノンフロン化を実現しました。特に縦型冷蔵庫には業界初として2007年から採用しています。廃棄製品の冷媒回収と併せてノンフロン100%を目指します。今後さらに多くの製品に採用することで、地球環境を大切にす最良の業務用冷蔵庫・ショーケースをご提供します。

高断熱構造BOX

新開発の省エネBOXは庫内の冷熱の庫外板金への伝導を遮断。また、庫内への熱浸入を防止する樹脂コーナーを各所に配置することで冷却ロスを防ぎ、より効率的な運転が可能になりました。

インバータ制御

圧縮機と庫内ファン・凝縮ファンを高精度にインバータ制御し、省エネ・省コストを実現しました。

冷凍冷蔵庫は冷凍・冷蔵ともに圧縮機をインバータ制御。(一部機種を除く)



Daiwa ECO SPIRIT



“冷”の技術が拓いてきた「食の安全」と「美味しさ」「快適」の追求。
より多くの場面で、より多くのプロフェッショナルのニーズに応えるために、
日々進化をしております。

21世紀は経営効率を高める一方、「地球温暖化問題」「オゾン層保護」の
ステップを確実にし、次世代に豊かな文化と未来を継続するために、
「トータル力」で提供してまいります。



高機能・高付加価値

- ・電子式鮮度保持
【鮮度くん】
- ・静音設計
【DCファンモータ・インバータ制御】
- ・センターノンピラー
冷蔵庫 / 冷凍庫
- ・恒温高湿庫
- ・急速凍結庫

オゾン層保護

- ・HFC冷媒
- ・ノンフロン断熱
- ・フロン回収システム



TOTAL SOLUTIONS

衛生管理

- ・クリアコートステンレス
- ・抗菌剤
- ・防カビ剤
- ・庫内アール加工

安心・安全

- ・アラーム機能
- ・漏電ブレーカー
- ・診断機能
- ・サービスネットワーク

省エネ・省コスト

- ・インバータ制御
- ・真空断熱材
- ・DCファンモータ
- ・新マイコン
- ・低消費電力化
- ・節水制御
- ・高断熱構造
- ・NHガラス

太陽光発電事業への参入と事業拡大

当社は業界に先駆け、冷蔵庫の本体・扉の断熱材にシクロペンタンを採用しノンフロン化を実現、環境への取り組みを行ってまいりました。また2013年5月より佐伯工場で太陽光発電にも参入いたしました。同年12月より大利根工場でも展開、さらに本年7月からは佐伯市床木地区でも2メガワットの大型設備を稼働させております。3拠点の総発電量は4.3メガワットとなり、当社年間消費電力量の約6割を賄っている状況にあります。

今後も再生可能エネルギー事業拡大を進め、CO₂排出量の抑制に努めてまいります。



佐伯市床木地区太陽光発電設備

2014年の主な新製品

インバータ制御冷蔵庫 エコ蔵くん



業界トップクラスの省エネ性能を誇る、インバータ制御冷蔵庫 エコ蔵くんがリニューアル。

業界初^{※1}となる真空断熱材の採用^{※2}、ドアバック・ガスケットの改良^{※3}による断熱性向上およびヒータ容量の低減により、省エネ性能がさらに向上。

※1: 2014年2月現在、業務用冷凍・冷蔵庫において(当社調べ)

※2: 代表機種に採用

※3: 順次切替

スライド扉冷蔵庫



幅 1200mmタイプ

幅 1500mmタイプ

幅 1800mmタイプ

従来の幅1500mmタイプと1800mmタイプに加えて、よりコンパクトに活用できる、幅1200mmタイプ(奥行800mm・650mm)の2機種が新登場。

ハンドルデザインを変更し、作業性が向上。

ブラストチラー / ショックフリーザー（縦型）



従来の横型タイプに加え、新たに縦型タイプが登場。
（共に1/1ホテルパン6枚収容可能）

ソフトチル・ハードチル・ショックフリーズの3つの
運転モードで多彩な食品に対応。

インバータ制御冷蔵ショーケース エコ蔵くん



（木目）



（白）

業界初のインバータ制御冷蔵ショーケース エコ蔵
くんに新たなラインナップが新登場。

機械室下置型タイプにおいて、従来の幅600mm・
1200mmタイプに加えて、新たに幅1800mmタイプを
追加。外装木目・白のバリエーションをラインナップ。

キューブ&クラッシュアイス 製氷機



キューブアイスとクラッシュアイスをつくる1台2役の
製氷機が新登場。クラッシュアイスのサイズは8mm～
15mmの範囲で調節可能で、業界トップクラスの砕氷
スピードを実現。

製氷能力110kg～420kgまでの5機種をラインナップ。

省エネタイプ E- モデル 製氷機



95kgタイプ



65kgタイプ

省エネタイプ E- モデル【25～95kgタイプ】
インバータ凝縮ファンにより消費電力・消費水量の
大幅な削減を実現し、業界トップクラスの省エネ性を
実現。静音性も向上し、より快適に使用できる。

65kg・95kg アンダーカウンタータイプが新登場。

会社の概況

平成26年6月30日現在

商号	大和冷機工業株式会社
英文名称	DAIWA INDUSTRIES LTD.
資本金	9,907,039,049円
発行可能株式総数	84,000,000株
発行済株式総数	51,717,215株（自己株式353,761株を含む）
中間期末株主総数	3,173名
大阪本社	大阪市天王寺区小橋町3番13号 大和冷機上本町DRKビル
東京本社	東京都台東区台東2丁目4番3号 大和冷機秋葉原DRKビル
佐伯工場	大分県佐伯市大字長良3325番地6
福岡工場	福岡県太宰府市水城6丁目32番1号
関東大利根工場	埼玉県加須市豊野台1丁目345番地5
従業員数	2,193名
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ 冷凍・冷蔵庫、ショーケース、製氷機、自販機および冷熱応用製品の製造販売およびリース並びに点検修理・ 冷熱機器の設備の工事および各種部品の製造販売並びに点検修理・ 厨房機器、装置、部品の製造販売およびリース並びに点検修理・ 店舗・厨房の企画、設計および施工

役員

平成26年6月30日現在

代表取締役会長……	尾崎	敦史	茂
代表取締役社長……	尾崎	敦	史
専務取締役……	杉田	壽文	宏
常務取締役……	小野	文	男
取締役……	笹井	正博	博
取締役……	西久保	博	康
取締役……	川村	常男	男
取締役……	尾崎	雅哲	郎
取締役……	工藤	哲	郎
常勤監査役……	大津	加一	治
監査役……	日下	敏彦	彦
監査役……	小野	芳明	明

(注) 取締役 西久保博康氏は社外取締役であります。
監査役 日下敏彦、小野芳明の両氏は、社外監査役であります。

執行役員

平成26年6月30日現在

社長執行役員……	尾崎	敦史	史
専務執行役員……	杉田	壽文	宏
常務執行役員……	小野	文	男
執行役員……	笹井	正博	博
執行役員……	川村	常男	男
執行役員……	尾崎	雅哲	郎
執行役員……	工藤	哲	郎
執行役員……	江村	祥一	彰
執行役員……	那須	元和	茂
執行役員……	平出	和	茂
執行役員……	高橋	稔	稔
執行役員……	中津	留	彰
執行役員……	小西	西	隆

株主メモ

事業年度

毎年1月1日から12月31日まで

期末配当金受領株主確定日

12月31日

中間配当金受領株主確定日

6月30日

定時株主總會

毎年3月

株主名簿管理人

特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内1丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

特別口座の口座管理機関連絡先

大阪府中央区伏見町3丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券

代行部

電話 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第1部

公告の方法

電子公告により行う

公告掲載URL <http://www.drk.co.jp/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種のお手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

信頼で結ばれたワイドなサービスネットワーク。

全国をサービス・メンテナンス・最新情報の高感度アンテナとしてネットワーク。よりきめ細かく、スピーディに対応します。

